

発表者 木村 福美

テーマ 「一人ひとりの多様性を認め合い、個性を生かす教育」

木村と申します。「一人ひとりの多様性を認め合い、個性を生かす教育」ということでお話をさせていただきます。生徒一人ひとりには、国籍、性別、性格、能力に加え、発達障害のある子、集団生活になじみにくい子、学習障害のある子、不登校の子等、多種多様な子どもがおりますが、学校教育の集団教育力を生かした指導を大事にしていきながら、今後は多様な個性に応じたきめ細かい教育を行わなければなりません。

戦後、高度成長期までの教育制度は詰め込み型、暗記型でした。生徒は与えられた授業をこなしていればよい学校に入れ、よい企業に入り、終身雇用制で一生安泰というものでした。バブルがはじけ、低成長期になりますと、大学を出てもきちんとした会社に入れるか、また、正社員になれるかどうか分からないという時代になってまいりました。

このような流動的な時代の中で学生は自ら考え、学び続け、自分で自分の人生を切り開いていくことが求められるようになってまいりました。そして、個性を生かす教育は、1985年の臨教審の第一次答申で個性重視の原則が打ち出され、個性を生かす教育は教育価値の主要な原則であり、教育の内容、方法、生徒、政策等全般にわたって抜本的に見直さなければならないとされ、1990年にはこの個性重視の原則に沿って、いじめや不登校、障害を持つ子、日本語が不得意な子への対応が改善されてまいりました。

中野区におきましても、第3次「新しい中野をつくる10か年計画」の中の教育の区民の目標とする姿の中で、一人ひとりに応じた細かい教育により、子どもたちが意欲的に学び、自ら考え、課題を解決する力、豊かな人間性、確かな学力、コミュニケーション力等を伸ばしていきまうようになっております。

しかし、個性を生かす教育は、突き詰めて言いますと、子ども中心の世界です。子ども中心主義は子ども自身の主体性や関心、意欲を重視し、体験活動を通じて自ら学び、考える力や問題発見解決能力や想像力を育成しようとする考えです。しかし、この行き過ぎた個人主義の方法は学力低下をもたらすという説もあります。

個性重視の教育は、子どもが自ら学ぶ意欲を持って自主的に自立的に組み立てていくことが推奨されますが、意欲と能力がある子はどんどん前に進みますが、能力の劣る子は落ちこぼれになる可能性が高く、学力差が拡大しやすいと思われまう。

個人主義は現在の小中学生の公教育にマッチしまうでしょうか。税金によって運営され、一定の社会的合意を前提に、教育を集合的に行っている公教育と、本当の自分を大切にする個性重視の教育は相入れないものではないで

しょうか。

また、教える側にも条件整備が追いついていないのです。一人ひとりの子どもへのきめ細かい対応は当然ながら手間がかかります。このような改革が上から振ってくると、教員が全てに対応します。現在のように教員は多忙で、超過勤務の状況です。国からのさらなる高度な問題の処理ができにくい状況になっております。つまり、教員の数が足りないのです。予算づけをして、教員の数を増やさなければならないのです。

結論的には、現在の日本の小中学生は、生徒に生き方の基礎を教えるという面、また、授業効率化の面からも、生徒全員に一律に教える集団授業を行うのがよい方法だと思います。しかし、ある程度自我が芽生えてきた高校生、大学生には自分の個性に合った個性重視の原則にのっとった学校選択、学科選択をするという方法をとったらよいのではないかと思います。

つまり、集団的授業と個性重視の原則の授業を年代により使い分けるのがよいのではないかと思います。また、今までのように、教育政策は国が学校へ一方的に上から押しつけ、教師は初耳だというのではなく、国、地方自治体、教育委員会、学校、教師、家庭の当事者がよく話し合って、いろいろな政策を決めるという形をとったほうがよいと思います。以上です。

区長 今の発表の中で改めてお聞きしたいのは、個性重視というのは年代別にやって、若いころというのはやはり集団の指導のほうがいいのではないかという趣旨だったのですよね。

木村 そうです。

区長 発表の前段にあったように、一人ひとりに個性があって、同じやり方をしていると、やはりついて行けない子どもも当然出ますし、型にはめられてうまくいかない子ども出てきます。そういう子どもたちは、例えば小学校の早くから、就学前かもしれないけれども、そうした段階の子どもたちに対してどういうケアをすればいいと思いますか。

木村 それぞれ個性が子どもたちにもございますので、当然、そういう個々に応じた対応はするわけですがけれども、要するに教育の基本方針としてはやはりそうです。基礎を重視するという方法を基本にして、それに応じて個々の人間に対して、当然、何でも一律にやるのではなくて、そこはやはり個人個人のあることですから、それはそれに対応しなければいけないと。ただ、さっきもお話し

しましたけれども、先生もかなりアップアップの状態みたいな状況になっているので、その辺のケアはしなければいけないのではないかなという気はします。

区 長 先生の余裕がないというのは、まさに我々も今、実感しているところでありまして、そこは何とかしないとイケないと思っています。

区 長 ご自分が区内の小学校、中学校に通われた頃、教育、学校について何かお感じになったことは、今思い出されますか。

木 村 私なんかは、正直言って何も分からないような状況で小学校には入ってきていたのですが、それで、正直で言うと、やはり字を書くことから。そういうことから先生が丁寧というか、分かるようにそういうやる気までサポートしてくれて、それで教えていただいたというのが、大人の今になっても、それはやはり一番の基礎になっているのではないかなという。

区 長 ありがとうございます。お疲れさまでした。